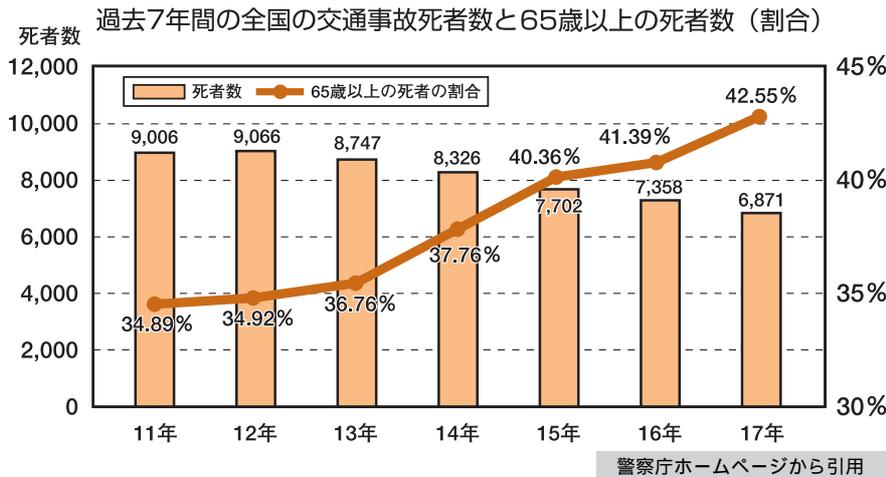
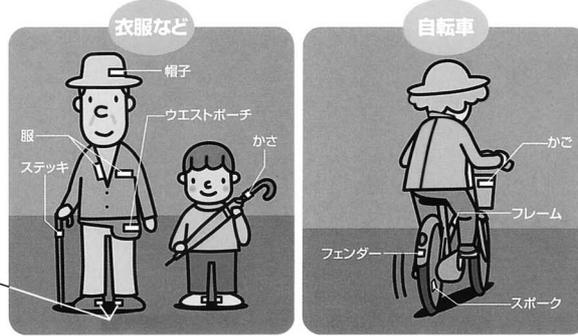


『反射材 着けだじっちゃん スターだしゃ』

平成18年度高齢者の交通安全『あきた弁川柳』入選作品

反射材は
どこにでも
張ることが
できます

「靴の裏やかかと」が
効果的です



高齢者の多くは、長年暮らしている自宅周辺の交通事情が変わっていても、そのことに気が付かないことが多く、警戒心が薄くなるようです。

また、自動車などの運転免許を持っていないで、交通標識やルールにあまり詳しくないというかたも多くいます。

このため、慣れている地元の道だと思つて、横断歩道の無い所を渡つたり、自宅の前だからと周囲を確認せず道路を横断してしまつたりすることもあるよう

自宅から500m以内での事故が多い

交通事故による死者の数は減少傾向です。しかし、65歳以上の高齢者の割合は増加しています。交通事故は一瞬で起きますが、その事故による影響は長く続きます。事故を起こさない、被害に遭わないために、私たちが考えることは何でしょうか。一緒に考えてみませんか。

交通事故ゼロを目指して

問 生活環境課

☎49-3111(内線347)

ですが、自宅周囲でも、十分な注意が必要です。

高齢者の意識と行動の特徴

高齢者の中には、「自分は大丈夫、事故に遭うことは無い」と思っているかたも少なくありません。そこで、運転者も高齢者の意識と行動を理解しなければなりません。

①まだ車は遠い

道路を横断するとき、遠くから車が来ることが分かっているにもかかわらず、「車が来るまでに渡り切ることができる」「車は停まってくれるはず」と考え、結果、危険な横断となるケースが見られます。

②道路に立ち往生してしまう

予想外に急に迫ってくる車に対して驚き、パニック状態になって、道路に立ち往生してしまうことがあります。

③危険を察知できない

高齢になるとつつむき加減で歩くことが多くなるため、どうしても視野が狭くなり、近付いてくる車や自転車などの発見が遅れ、危険を察知できないことがあります。